

## 1 研究主題

自ら考え、協働する子どもの育成

～生活科、総合的な学習の時間における個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を目指して～

## 2 研究実践の内容

- (1) 気付きの質の高まり（生活科）、形成する概念（総合的な学習の時間）を明確にして、大単元、小単元を構想する。実践後、児童の変容を質的に検証し、次年度の改善を図る。
- (2) 大単元や小単元、一単位時間を構想する際に、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実をどのように捉え、実践していくのかを検討する。実践後、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を子どもの姿で語る事ができるように学年で振り返る。
- (3) 単元構想、授業づくりの検討を意図的・計画的・組織的に行う。また、外部講師を招聘し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実について学んだり、授業実践を価値付けてもらったりする。

## 3 実践事例及びその成果と課題

### (1) 気付きの質の高まり(生活科)、形成する概念(総合的な学習の時間)の明確化と単元の構想

生活科では「気付きの質の高まり」、総合的な学習の時間では「概念の形成」をねらって学習を進めた。それぞれは、目に見えにくいものであるため、授業をする際に授業者が明確にもっていなければならない。

今年度は、大研3本の公開授業と、全職員による一人一実践を行った。該当学年において、生活科、総合的な学習の時間の単元づくりに力を入れた。その際に大切にしたのが、「学習材」と「単元の評価規準」である。

「学習材」は、子どもが追究したい課題を設定する必要がある。当校の近くには歴史的建築物や古町・本町など、魅力的な学習材が豊富である。子どもの関心や発達段階に応じて教材研究を進め、単元構想を行った。

「単元の評価規準」には、育成する資質・能力3つの柱で整理し、子どもの具体的な姿で明記した。その際、知識・技能に「多様性」「連携性」、思考力・判断力・表現力に「未来像を予測して計画を立てる力」、学びに向かう力、人間性等に「他者と協力する態度」「進んで参加する態度」とした。単元で育成する資質・能力を具体的に明記することで、単元のどこで何が育成できているか共有することができるのである。

<b>【教育課程全体で育成する資質・能力】</b>	
<b>【学びに向かう力、人間性等】</b>	
<b>【他者と協力する態度】</b> 他者の立場に立ち、他者の考えや行動に共感しながら学びを進めようとする態度 <b>【進んで参加する態度】</b> 集団や社会における自分の発言や行動に責任をもち、自分の役割を理解するとともに、学びに主体的に参加しようとする態度	
<b>【知識・技能】</b> <b>【多様性】</b> 自然・文化・社会・経済は、起源・性質・状態などが異なる多種多様な学び（ものごと）から成り立ち、それらの中では多種多様な現象（出来事）が起きていること <b>【連携性】</b> 持続可能な社会は、多様な主体が状況や相互関係などに応じて順応・調和し、互いに連携・協力することにより構築されること	<b>【思考力・判断力・表現力等】</b> <b>【未来像を予測して計画を立てる力】</b> 過去や現在に基づき、あるべき未来像（ビジョン）を予想し、他者と共有しながら学びを計画する力 <b>【多面的、総合的に考える力】</b> 比較したり、分類したり、関連付けたりしながら、情報を整理し、事実を捉える力
※ESDの視点に立った学習指導で重視する7つの能力・態度、6つの視点を基に作成	

**(2) 単元構想、授業づくりの検討を意図的・計画的・組織的に行う。また、外部講師を招聘し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実について学び、授業実践に生かす。**

当校では、子どもの聴き合う力を育むことをねらい、「聴く・話すスキル」を大切にしている。「聴くとはどういうことなのか」「聴き合う状態は、どんなときに現れるのか。どのように見取ればよいのか」など、不明確なことが多くあった。職員全員が同じ方向を向いて「聴き合う」ことに力を入れられるように、外部講師を招聘することとした。東京大学准教授の一柳智紀様をお招きし、全学級の授業参観と、講演会を行った。ここで得たことをもとに、全職員が一丸となって「聴き合う授業」と「聴く・話すスキル」の活用を行い、授業実践を行った。

ていがかねんにひつようなスキル	
きくスキル	<ul style="list-style-type: none"> <li>○あいての いっていることを わかるうとして きく</li> <li>・「なるほど」「そうだね」</li> <li>・「おなじです」「にています」</li> </ul>
はなすスキル	<ul style="list-style-type: none"> <li>○じぶんのかんがえを せいりしてはなす</li> <li>・「～とおもいます」</li> <li>・「なぜなら～からです」</li> <li>○あいてに わかるように はなす</li> <li>・さいごまで はっきりと はなす。</li> <li>・あいてやばしよにあわせて からだのおきとこえのおおきさを かけてはなす。</li> </ul>

【低・中・高学年  
聴く・話すスキル表】

中学年に必要なスキル		高学年に必要なスキル	
聴くスキル	<ul style="list-style-type: none"> <li>○相手の意図を分かうとして聴く</li> <li>・「なるほど」「そうだね」「同じです」「もう一度言ってください」</li> <li>○自分とはちがう考えも共感して聴く</li> <li>・「ここまでは、私と同じです」</li> <li>・「今の意見と同じところもあるけれど…」</li> </ul>	聴くスキル	<ul style="list-style-type: none"> <li>○相手の意図を分かうとして聴く</li> <li>・「なるほど」「そうだね」「同じです」「もう一度言ってください」</li> <li>○自分とは違う考えも共感して聴く</li> <li>・「ここまでは、私と一緒に考えます」</li> <li>・「今の意見と同じところもあるけれど…」</li> <li>○友達が言いたいことを想像しながら聴く</li> <li>・「～さんが言いたいことは、…だと思ひます」</li> </ul>
話すスキル	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分の考えを整理して話す</li> <li>・「私は～と思ひます」「なぜなら～からです」「だから」「でも」「たとえば」「もし」</li> <li>○相手に分かるように話す</li> <li>・図、表や具体物を使いながら話す。</li> <li>・相手に同意を求めながら話す。</li> </ul>	話すスキル	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分の考えを整理して話す</li> <li>・「私は～と思ひます」「なぜなら～からです」「だから」「でも」「たとえば」「もし」「つまり」「たしかに」「そのために」</li> <li>○相手に分かるように話す</li> <li>・図、表や具体物を使いながら話す。</li> <li>・相手に同意を求めながら話す。</li> </ul>

**4 まとめ**

子どもは、学ぶことが大好きである。生活科・総合的な学習の時間の学びでは、子どもが自ら課題を見付け、課題解決のために自分たちで最適解を導き出した。当校の子どもたちは、学校や身近な地域の魅力と現在直面する課題について真剣に考え学び進める姿があった。

このような姿は、育成する資質・能力を明らかにし、「聴き合う」ことを明確にして教育活動を行ったからではないかと考える。今年度は、全員で実践を行ったことから、単元づくりや授業づくりについても多くの時間をかけて話し合っていた。職員自身が、子どもの見取りや授業について語り合うことが成果につながったと考える。

今年度の研究の課題は、以下の通りである。

- 「聴く・話すスキル表」を活用していく。
- 特に総合的な学習の時間は、長ければ70時間に及ぶ単元となる。そのため、単元に見通しをもつことが重要であるとともに、難しさがある。単元づくりについて改善が必要である。

今後も、子どもたちと共に追究していけるような魅力ある授業づくりや単元づくりを行っていきけるよう、教職員全員で取り組んでいく。

第1学年2組 生活科学学習指導案

令和5年7月13日(木) 第5校時

指導者 教諭 氏田 美香

1 単元名 「きれいにさいてね」～アサガオのおとうさん・おかあさんになろう～

2 単元目標

植物を継続的に栽培する活動を通して、それらの育つ場所、変化や成長の様子に関心をもって働きかけ、それらは生命をもっていることや成長していることに気付くとともに、植物に親しみをもち、大切にしようとすることができる。

3 単元の構想

(1) 単元の構想

子どもたちは、5月のゴールデンウィーク明けからアサガオの種をまいた。晴天に恵まれた影響もあり、およそ1週間ほどで発芽することができた。毎朝登校時に水やりをしてから教室に入ってくるようになっており、「先生、〇〇ちゃんのアサガオ、3個芽が出ていたよ。」「ぼくのアサガオの葉っぱが少し虫に食べられているけど、大丈夫かな。」「わたしのアサガオ、葉っぱと葉っぱの間から赤ちゃんの葉っぱがでてきたよ。」など、発芽や成長を楽しみにしながら水やりをしている様子が見られる。

この単元では、自分が種をまいて発芽・開花へと変化していくアサガオの成長と、おうちの人が大切に育ててくれたお陰で小学校へ入学することができた自分の成長とを重ね合わせることで、アサガオを大切に育てていきたいという思いを高めさせたい。そのために、自分がアサガオのお父さん・お母さんになって、成長の様子について友達のアサガオと比べながら観察したり、成長の記録を残したり、成長の変化を実感したりできる活動を取り入れる。

また、単元全体を通して、見たり、触ったり、においをかいだりする活動や、「〇〇の形みたい」などの子どもなりの表現の仕方を大切にしながらアサガオを観察したり、記録に残したりしていく。その学習の積み重ねを通して、葉っぱや茎、つるやつぼみ、花、そして種など、アサガオの成長の変化に気付き、植物の成長の面白さを実感したり、成長を喜んだりする子どもたちの姿を期待している。

(2) 学習材について

学習活動：動植物の飼育・栽培	
【学習対象】 〇アサガオ	【学習内容】 〇葉っぱや茎、つるやつぼみ、花、そして種など、アサガオの成長の変化に気付き、植物の成長の面白さを実感したり、成長を喜んだりしている。

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
植物を継続的に栽培する活動を通して、植物は生命をもっていることや成長していることに気付いている。	植物を継続的に栽培する活動を通して、植物の育つ場所、変化や成長の様子に関心をもって働きかけられている。	①植物を継続的に栽培する活動を通して、生き物への親しみをもち、大切にしようとしている。 ②友達の考えを分かろうとして聴いたり、友達の世話の仕方を自分に生かそうとしたりしている。

5 単元計画 (全22時間)

小単元の学習課題 (時数)	〇学習活動	期待する変容	知	思	態	●関連する教科等
						●すきなものやその理由について発表した学習を想起して、話をしたり、聞いたりする。国語「あつまってはなそう」
1 身近な花や植物について考えよう。(1時間)	〇園や家庭生活での経験から、見たり聞いたり育てたりしたことのある花や植物について思いをめぐらせるとともに、大きく成長するために大切なことについて考える。	幼稚園でアサガオを育てたことがあるよ。ぼくが成長して小学校に入学できたのは、おうちの人のおかげだよ。			①	
2 アサガオの種はどう	〇アサガオを育てるために必要な種を観察し、色や形、大きさなどの特徴に気付くとともに、自分の種に愛着をもつ。			〇		

<p>やって植えたらいかな。 (2時間)</p>	<p>○種のまき方や水やりの仕方などについて考え、種まきをす る。</p> <p>アサガオの種には「へそ」という大切な部分があるんだ な。へその位置をしっかりと確かめてからたねをまこう。ふか ふかの土にまいたら、ペットボトルでお水をたっぷりあげ よう。</p>	○		
<p>3 アサガオ の芽や葉は どのように 成長するか な。 (6時間)</p>	<p>○発芽の喜びをみんなで共有するとともに、発芽や双葉の様子 を観察し、葉の形・色・手触りなどに気付き、観察カードにか く。</p> <p>○本葉が出たころの様子を観察したり、タブレットで写真を撮 ったりして、成長の様子を友達と伝え合う。</p> <p>○双葉が出たころの様子と本葉が出たころの様子の違いが分 かるように、観察カードにかく。</p> <p>最初はハートみたいな形の葉っぱだったけど、大きくなっ て、ちょうちょの羽みたいな形になったよ。それに、2枚の 葉っぱの間から新しい葉っぱが生えてきたよ。</p> <p>○本葉の成長とともに必要なことを話し合い、間引きをする。</p> <p>○葉が増え、つるが伸び始めるころの様子を観察し、タブレッ トで写真を撮ったりして、成長の様子を友達と伝え合う。</p> <p>○本葉が出たばかりのころと、葉が増え、つるが伸び始めるこ ろの様子の違いが分かるように、観察カードにかく。</p> <p>茎が長く伸びてきて、大きい葉っぱがたくさんできてきた よ。くるんとしたつるがいくつもあったよ。</p>	○	○	②
<p>4 アサガオ のつるやつ ばみ、花はど のように成 長するかな。 (5時間)</p>	<p>○つるが長く伸びてくるとともに困ったことや必要なことを 話し合い、支柱立てをする。</p> <p>○つるが長く伸びて、支柱にからまってくるころの様子を観察 し、タブレットで写真を撮ったりして、成長の様子を友達と 伝え合う。</p> <p>○つるが短かったころと、つるが長く伸びて、支柱にからまっ てくるころの様子の違いが分かるように、観察カードにか く。</p> <p>長いつるがぼうに巻き付いているよ。くるくるしていて 面白いね。葉っぱはもう10枚以上あるよ。</p> <p>○つるが巻き付き、つばみや花ができてきたころの様子を観 察したり、タブレットで写真を撮ったりして、成長の様子を 友達と伝え合い、自分のアサガオの成長を実感する。(本時)</p> <p>○つるが伸びてきたばかりのころと、つるが伸びて巻き付き、 つばみや花ができてきたころの様子の違いが分かるように、 観察カードにかく。</p>	○	○	①
<p>5 アサガオ の花・つる・ 葉・種を使っ てどんなこと ができるか な。 (7時間)</p>	<p>○自分が育てたアサガオの開花を喜ぶとともに、花や葉を使っ た遊びや作品づくりについて話し合い、花や葉を使った活動 を楽しむ。(2時間)</p> <p>紫色のアサガオが咲いたよ。この花で色水を作って、塗って みたい。このきれいな葉っぱをしおりにするのもいいな。</p> <p>○アサガオの種ができるころの様子を観察し、タブレットで写 真を撮ったり、観察カードにかいたりする。</p> <p>○芽が出て種ができるまでのアサガオの成長とともに、自分の 成長を振り返り、アサガオの成長アルバムを完成させる。</p> <p>○種をとり、とった種でどんなことができるか、あまったつる</p>	○	○	①

●丸、三角、四角、楕円、星、長方形など、いろいろな形をもとにして絵を描いた学習を想起して、種の形や特徴をとらえる。図工「すきなかたちやいろいろなあに」

●色、形、大きさ、高さ、太さ、数、におい、触った感じなど、様々な観点から観察して、伝えたいことを文章で表現した学習を想起して、観察したり、カードを書いたりする。国語「おおきくなった」

●かぼちゃのつるが伸び過ぎて痛い思いをしたお話をもとに、伸びてきた自分のアサガオのつるもどうしたらよいかについて考える。道徳「かぼちゃのつる」

●初めて絵の具で色作りや色塗りを楽しんだ経験を想起して、花や葉で色水作りや絵を描く活動を楽しむ。図工「みてみてあね」

	で何ができるか話し合う。			
	○種をつかった遊びや作品づくりを楽しむ。			①
	○つるを使った作品づくりを楽しむ。(2時間)		○	①

## 6 本時の計画 (13時間 / 21時間)

### (1) 本時目標

アサガオのつぼみができたり花が咲いたりしている様子について、自分や友達のアサガオを観察したり、自分のアサガオの成長の様子を友達と聴き合う活動を通して、つるやつぼみ、花などアサガオの成長の様子に気付いたり、自分のアサガオへの愛着をさらに深めたりする。

### (2) 本時に向かう児童の実態

アサガオの種が発芽してから葉っぱや茎、つるの成長の変化に焦点を当てて学習を進めてきたが、7月になってつぼみができたり、花が咲いたりし始めてきた子もいる。朝の登校時の水やり後には、自分が大切に育ててきたアサガオのつぼみや花ができて喜んだり、期待に胸を膨らませたり、できずに心配したりする様子が見られている。本時では主に、ようやくできたつぼみや花の様子に着目させて観察したり、写真を撮ったりしながら成長の様子をとらえ、アサガオの成長を楽しみながら、新しい発見をする姿を期待する。

### (3) 本時の主な働き掛け

自分のアサガオのつるやつぼみ、花の様子をその場で観察させ、分かった成長の変化を、タブレットで写真に撮らせて、写真に印を付けさせる。自分のアサガオを見たり、触ったり、においをかいだりして分かったことをみんなで共有しながら聴き合うことで、自分と友達のアサガオの成長の共通点や相違点に気付かせ、改めて自分のアサガオの成長を確かめるとともに、自分のアサガオへの愛着を深めさせる。

### (4) 本時の展開

学習活動	教師の働きかけと予想される児童の反応	■評価・○手立て・ ＜主な働き掛け＞
<b>導入</b> 1. 前時の学習を振り返り、本時の課題を確かめる。 (5分)	T1 みんながアサガオのお父さん・お母さんになって、毎日水やりをがんばっているおかげで、アサガオが成長してきましたね。 C1 葉っぱがたくさんできた。 C2 つるが伸びてきた。 C3 つぼみができた。  T2 この前観察カードをかいた後から、アサガオが成長して、どんなところが変わったか、自分のアサガオの成長した様子を教えてください。	○前回のアサガオの様子を思い出せるように、前回撮った写真を見て確認させる。
<b>＜課題＞</b> アサガオは、どんなふうにいよいよしているかな。		
<b>展開</b> 2. 自分のアサガオの成長を観察する。 (10分)  3. 自分のアサガオを観察して成長した様子を発表する。 (10分)	T3 自分のアサガオを観察して、成長したところを写真に撮って、みんなに教えられるようにしてください。 C4 この前よりつるが長く伸びているよ。 C5 ぼくは、つぼみができてきたところを観察したいな。 C6 わたしは○色のきれいなお花がさいたよ。  T4 自分のアサガオが成長して、変わったところを教えてください。 C7 前は少し出ただけだったけれど、つるがぼくのうでくらい長く伸びていました。 C8 前は、つるが棒に巻き付いていなかったけれど、ぐるぐるに巻き付いていました。 C9 前はなかったけれど、ソフトクリームの形みたいなつぼみができました。	○アサガオの成長の様子や違いが分かるように、タブレットで撮った写真に印を付けさせる。  <b>＜主な働き掛け＞</b> オープンスペースにアサガオを用意し、その時の自分のアサガオをすぐに観察できるようにする。  ■自分の前のアサガオの写真と比べながら観察したり、成長の変化が分かる部分に印を付けたりしている。 ○つるがどのくらい伸びたか自分の体で表現させたり、どんなつぼみを何か例えて考えさせたり、

<p>4. 自分と友達のアサガオの成長の様子から、共通点や相違点について考える。(10分)</p> <p>5. 自分や友達のアサガオの成長の様子を観察し直す。(7分)</p>	<p>C10 前はつぼみだったけれど、お花が咲いていました。</p> <p>T5 自分のアサガオを観察したり、友達のアサガオの様子の発表を聞いたりして、アサガオはどんなふうに成長してくると分かりましたか。</p> <p>C11 つるがどんどん長く伸びてくることです。</p> <p>C12 つるがぼうにぐるぐるに巻き付いてくることです。</p> <p>C13 ○○の形みたいなつぼみができることです。</p> <p>C14 お花を触ると○○しているということです。</p> <p>T6 もう一度自分のアサガオを観察し直したり、友達のアサガオを見せてもらったりして、みんなで話し合ったことが本当か、確かめてみましょう。</p> <p>C15 ○○さんが言っていた通り、私のつぼみも○○みたいな形に見えるよ。</p> <p>C16 ○○さんのアサガオは、私よりも棒にたくさんつるがぐるぐる巻き付いていてすごいね。</p> <p>C17 本当だ。つぼみを触るとふわふわしているよ。</p>	<p>どんなお花かを、形や匂い、触感などから観察させたりするなど、子どもなりの表現の仕方で、アサガオの成長の様子に気付かせる。</p> <p>○写真をロイロノートで提出させ、一人一人のアサガオの成長の様子を聞きながら、写真でもみんなで確認できるようにする。</p> <p>○アサガオの成長について、自分と友達のアサガオで似ているところや違うところに着目させたり、新しい観察の視点に気付かせたりする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>&lt;主な働き掛け&gt;        友達の発表から、友達のアサガオと比べながら自分のアサガオの成長の様子をもう一度確かめたり、新しい視点から深く観察し直したりする場を設定する。</p> </div> <p>■友達の気付きを参考にして、自分や友達のアサガオの成長の様子を確かめたり、新しい視点から観察し直したりしている。</p>
<p>終末</p> <p>6. 自分のアサガオへの思いを発表する。(3分)</p>	<p>T7 アサガオがたくさん成長していることが分かりましたね。たくさん成長している自分のアサガオさんにどんなことを言ってあげたくなりましたか。</p> <p>C18 暑いけど、がんばってね。</p> <p>C19 これからも元気でお花を咲かせてね。</p> <p>C20 ぼくも水やりをがんばるからね。</p>	<p>○これから増えるであろうつぼみや花の開花に期待する思いやこれからもアサガオを大切に育てていこうという気持ちに気付かせる。</p> <p>■自分のアサガオを大切に思う気持ちを言葉で発表したり、友達の発表に頷いたりしている。</p>

<まとめ>  
 つるが○○くらい長く伸びて、棒にぐるぐる巻き付いたり、○○のようなつぼみができたり、○○なお花がさいたりしている。

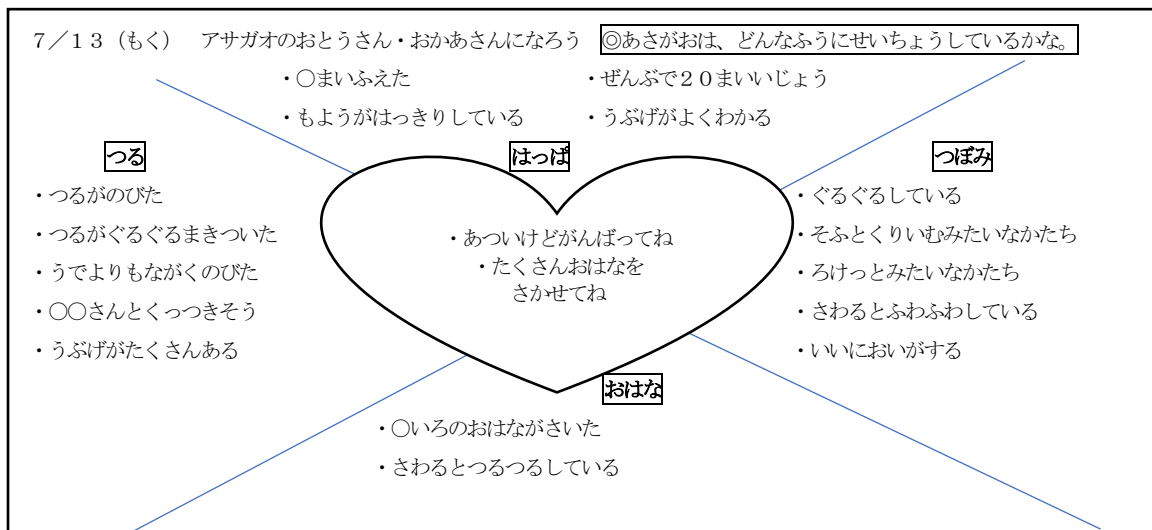
### 7 本時の評価規準

自分のアサガオをその場で観察させたり、友達のアサガオの成長の様子を聴き合った後で、もう一度自分や友達のアサガオを観察し直したりする活動を通して、つるやつぼみ、花などのアサガオの成長の様子に気付いたり、自分のアサガオへの愛着をさらに深めたりしている。

### 8 参考文献

文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 生活編』

### 9 板書計画



## 第4学年2組 総合的な学習の時間指導案

令和5年10月13日(金) 第5校時

指導者 教諭 大竹 友美

## 1 単元の構想

## (1) 単元の構想

単元の初めに、古町はどんなまちかを子どもたちに問うと、「たくさん店がある」「イベントが多く、楽しくてにぎやか」「歴史があり、店の人たちが協力している」と、多くの子どもたちはプラスのイメージで捉えていた。しかし、マイナス面もあるのではないかと思う子どもたちもいて、家の人に古町について聴いてくることにした。家の人たちは、「古町は楽しいところであるが、人が少なくて寂しい」「活気がない」と捉えていることが分かった。また、「古町は昔、お店がいっぱいあってにぎやかだったから、人がにぎわう町になってほしい」と、思っていることも知った。そこで、もっと古町の現状を詳しく知るために、新潟古町まちづくり株式会社や商店街の店主の方々に話を聴く機会をもった。すると、「新潟島の人口が減っていること」「郊外に買い物に行く人が増え、古町に来る人が減っていること」が分かった。また、古町に来てほしいという思いから古町スイーツという取組が受け継がれてきていることも知った。これにより、子どもたちはもっと古町に人が来てほしい、古町スイーツに取り組んでみたいと思うようになり、「4年生の総合で、古町スイーツで古町ならではの魅力を伝えて、古町に来たいと思ってもらえる活動をしたい」と、意欲を高めていった。

この学習で、古町で店を営む方々に繰り返し取材したり、職人さんと共にお菓子作りに取り組んだりすることで、子どもたちは古町で堅実に仕事に取り組む人たちの思いや願い、知恵を深く感じることが期待できる。また、商品開発のために古町の特徴を調査する活動では、古町の歴史や建造物、催し物、地形等の特徴を体験的に知り、自分たちが暮らすまちのよさを見直すことができる。さらに、まちの人口減少や歩行者通行量の低下という課題にしっかりと向き合い、まちの活性化を目指し、地域や商店街の方々と共に本気でまちの一員として貢献できる方法を考え続ける子どもたちの姿を期待している。

## (2) 学習材について

探究課題(学習活動)：商店街の活性化に向けた取組や活動に関わる人々の思い	
学習対象	学習内容
○古町の歴史・催し物・地形	・地域には歴史的な建物や催し物、特徴的な地形があり、それらを大切に守り、受け継いできた方々がいること。
○古町まちづくり会社の方々	・地域には、古町の活性化に関わる取組を計画し、協力し合いながら、実情に合わせて実施している方々がいること。 ・地域には自分たちの活動を支えてくださる方々がいること。
○洋菓子・和菓子職人	・お菓子作りに携わる職人の方々はそれぞれ専門的な知識や技術をもち、誇りをもって仕事に取り組んでいること。

## 2 単元名 古町スイーツプロジェクト

## 3 単元目標

古町ならではの魅力をお菓子に表現し、それを広めていく活動を通して、お菓子作りに携わる職人さんの知恵や仕事に対する姿勢や古町の活性化に尽力する方々のまちを大切にする思いに気づき、地域の一員として自分たちが住むまちのためにできることは何かを考え、行動しようとする。

## 4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①地域で起きている人口減少の現状と、地域経済の消費動向の影響によって、商店街を利用する人数が減っている状況に気付いている。	①まちづくりに携わる方々へのインタビューから、商店街を取り巻く状況をつかみ、商店街の活性化のための課題や必要な取組について、見通しをもっている。	①地域の魅力を表現したお菓子の開発を通して、お菓子作りに携わる職人の方々と関わりながら、地域ならではの魅力が食べた方に伝わる方法を追究し続けようとする。
②地域の魅力を生かしたお菓子を作る活動を通して、自分たちが住むまちならではの魅力があることやそれらは地域の人々によって大切に守られてきたことを理解している。	②まちの魅力を歴史・建物・催し物・人の視点で分類した上で、自分たちが暮らす地域ならではの条件で比較することで、販売するお菓子のデザインを決定している。	②地域の魅力が伝わる商品作りを目指して、友達や職人さんと食材選択のための話し合いを繰り返し行い、よりよい商品を作り、広めようとする。
③変化する社会の状況に合わせて、商店街の活性化を目指す取組があることや地域全体が関わりをもち活動を継続することに意味があることを理解している。	③アンケートで収集した情報をもとに、自分たちが商品化したお菓子の課題を明らかにして、地域の活性化を目指した活動を継続していくための改善点をプレゼンテーションにまとめている。	③地域の魅力を表現したお菓子を発信することで、商店街の活性化に役立つことができた自分自身に気づき、地域の一員としてまちの活性化のために継続してできることを考え続けようとする。

5 単元計画 (全60時間)

小単元の学習課題 (時数)	○学習活動	期待する変容	知	思	態
1 私たちのまち、古町ってどんなまちだろう (8時間)	○2年生活科での「町探検」、3年総合での「一日店員活動」を振り返るとともに、総合的な学習の時間の学び方をつかむ。 ○古町ほどどんなまちなのか知っていることや調べたことを共有し、古町について分かったことをまとめる。 これまで学習から、古町はいろいろなお店があつてにぎやかだと思っただけで、昔より人が少なくて活気がないことも分かってきた。もっと古町のことを詳しく知りたいな。		①		
2 古町を元気にするためにできることは何だろう (10時間)	○自分たちが暮らすまちが抱える課題や取組を知るために、地域の活性化に携わる立場の方から、把握している地域の現状や取組を伺う。 ○集めた情報から、今後自分たちが解決すべき課題とその解決方法を定める。 ○地域の特徴を表現したお菓子上で古町の魅力を伝え、地域を活性化するために何をどんな順序で行うべきなのかを決める。 古町を利用する人が減り、昔に比べて活気がなくなっていることが分かった。古町の魅力をお菓子上で表現し発信することで、古町に來たいと思ってもらえる活動をしたい。			①	①
3 古町ならではのお菓子を作るための必要なのは何だろう (12時間)	○おいしいお菓子や全国で名物になっているお菓子を調査し、特徴について分析する。 ○まちづくり会社から紹介していただいたお店の方から、洋菓子と和菓子の違いや商品開発の手順、お菓子作りで大切にすることについて話を伺う。 ○古町の魅力を考え、分析し、歴史・建物・催し物・人の視点で、古町の魅力についてさらに調べる。 ○まち探検やアンケート調査を実施し、古町ならではのものやこと、どのようなお菓子が好まれる傾向があるのか分析する。 古町の魅力は、「まちの歴史」「人と人の交流」「楽しい行事」なんだ。魅力をお菓子上で表そう。		②		
4 古町スイーツにして表そう (12時間)	○調査活動をもとに、お菓子のコンセプトとデザインを考え、お菓子上で表現したい古町の魅力を「古町らしさ」「お菓子としての実現可能性」という2つの条件で比較し、デザインを選択する。→提案する。 ○全国で名物になっているお菓子の商品名の特徴を分析する。 ○分析した商品名の特徴を生かして、古町スイーツの商品名を考える。 ○考えた商品名について、お菓子の商品名の特徴を満たしているかを検討し、スイーツが伝える○○の魅力を再認識する。 <b>&lt;本時&gt;</b> ○自分たちで選択したお菓子を、協力してくださる店舗の開発担当の方と、お菓子の実現の可能性について協議を行い、決定する。 一緒に開発してくださる職人さんたちの技や知識のおかげで、古町の魅力をお菓子上として表せた。このお菓子上で古町の魅力を広めていきたい。			③	②
5 古町スイーツプロジェクトを実施しよう (10時間)	○「古町スイーツプロジェクト」の計画を立てる。 ○完成した古町スイーツの試食を行い、宣伝のためにお菓子の特徴を「味・見た目・ストーリー」という視点でまとめる。 ○クラスで各プロジェクト下の分担を行い、準備を進める。発表を行い、各プロジェクト単位で修正点を見付け、計画の見直しを行う。 ○古町スイーツ発表会を実施する。参加していただいた方に、活動内容に関するアンケートを書いていただく。 プロジェクトの成功には、責任をもって役割を果たすことが大切だ。支えてくださる地域の方々がいるから古町スイーツ発表会ができた。				②
6 古町を元気にするために続けることは (8時間)	○アンケートをもとに、スイーツによって古町の魅力を伝えることができたかを話し合い、今後の自分たちの活動の方向を定める。 ○まちづくり株式会社、商店街の店主の方々と共に、持続可能な活動の存続の仕方について話し合う。 ○2回目の販売活動を行うことで、古町スイーツをもとに「古町の現状」「まちのつながりの大切さ」を地域に発信する。 ○活動を振り返り、自分が地域で続けていくことについて考え伝える。 この活動で、多くの人とつながり、職人さんのお菓子作りに対する思いや、まちを大切に思い、古町に人が来てくれるような取組を考え、協力し合っている方がいることが分かった。私は、同じまちの一員として、まちの魅力を伝え続けたい。		③	③	③

●関連する教科等

●エクスタチャートを用いて季節で感じたことを整理した経験を想起して、映像資料を視聴して感じ取った総合で大切にしたいことを4つの観点で整理する。  
国語「季節の言葉」

●折れ線グラフの傾きに注目して、変化を読み取った経験を想起して、中央区の人口の増減を読み取る。  
算数「変わり方がわかりやすいグラフを調べよう」

●学級集会で行う遊びを決める際に用いたピラミッドチャートを活用し、「簡潔である」「よりよく魅力が伝わる」の2つ条件で商品名を検討する。  
特別活動「学級集会をしよう」

●アンケート調査を行う際のポイントを想起し、記述式の項目と選択式の項目を組み合わせたいアンケートを作成する。  
国語「アンケート調査の仕方」

●これまで実施して分かった地域の現在の状況や、地域の特徴、今後の願いについて表やグラフなどの資料を見せながら、聞く人に分かりやすく話す。  
国語「調べて話そう、生活調査隊」



6 本時の計画 (36時間/60時間)

(1) 本時目標

自分で考えたスイーツの商品名について、お菓子の商品名の特徴を満たしているかを検討し、選択する活動を通して、これまで集めてきた資料を基にしてスイーツが伝える萬代橋の魅力を再認識し、伝えたいものの魅力が伝わるように考え直している。

(2) 本時に向かう児童の実態

名物になっているお菓子の商品名の特徴を分析し、商品名には、「シンプルで短い(3文字以上12文字以内)」「伝えたいものの魅力を伝えている」の特徴があることに気付いている。また、お菓子の発案者の考えを聴いて、お菓子に込めた萬代橋の魅力や使った素材については理解している。これらを踏まえて、一人一人がスイーツの商品名を考えている。しかし児童は、考えてきた商品名で萬代橋の魅力が伝わるのか自信がなく、友達と相談や確認をしたいと思っている。

(3) 本時の主な働き掛け

スイーツが伝える萬代橋の魅力を商品名に入れないと、スイーツを買おうとしている人に萬代橋の魅力が伝わらないことに気付くことができるように、魅力が伝わるかどうかの検討で困っているグループか、同じ商品名でも意見が分かれているグループのものを取り上げ、全体で検討する。

(4) 本時の展開

学習活動	教師の働きかけと予想される児童の反応	■評価・〇手立て・〈主な働き掛け〉
<p><b>導入</b></p> <p>1. 前時の学習を振り返り、本時の学習活動を把握する (5分)</p>	<p>T1: 個人で商品名を考えましたね。考えた商品名に自信はありますか。                      C1: 自信がない。友達と相談したい。                      C2: どんな商品名がよいのか、話し合いたい。                      T2: では今日は、「<b>どんな商品名にしたらよいのか</b>」について話し合いましたよ。考えた商品名を教えてください。                      C3: ぼくは、「萬代橋チュールリップケーキ」という商品名を付けました。理由は、萬代橋とチュールリップを表しているからです。                      C4: 私は、「萬代橋ケーキ」という商品名を付けました。一番表したいのは萬代橋だからです。                      C5: 私は、美しいアーチが特徴的なので「美しいアーチ橋花ケーキ」にしました。チュールリップは長いので花にしました。                      C6: ちょっといいですか。こんなにたくさん商品名を出しても決められないと思います。                      C7: 提案するスイーツを決めていったときのように、グループで話し合うのはどうですか。                      C8: 一つ一つじっくり話し合えるからグループで話し合った方がいいと思います。                      T3: スイーツを決めたときのように、グループで話し合うでいいですか。                      C9: いいです。                      T4: 商品名を考えるとき、2つの特徴が入るように考えましたね。どんな特徴がありましたか?                      C10: 「シンプルで短い(3文字以上12文字以内)」と「伝えたいものの魅力を伝えている」です。                      T5: それでは、考えてきた商品名に、この2つの特徴が入っているかどうかを話し合います。どんな思考ツールを使って話し合いますか。                      C11: ピラミッドチャートです。                      C12: 条件を使って絞っていくからです。                      T6: なるほど。今日は、ピラミッドチャートを使って話し合います。それでは、グループで話し合いましたよ。</p>	<p>〇一人一人がどんな理由でどんな商品名を付けたのか根拠を明確にして話し合えるように、事前にロイロノートにまとめさせておく。                      〇本時は、どんな商品名にしたらよいかを話し合う時間であることを押さえ、板書する。                      〇話し合いの仕方についての意見が出ないときは、このままだと商品名を出すだけで終わってしまうことを投げ掛け、話し合うためにはどうしたらよいかを問う。                      〇条件に当てはまるか一つずつ検討していくことを説明し、どの思考ツールを使うかを問う。                      〇商品名の特徴の段階をピラミッドチャートで示したものを提示する。</p>
<p><b>展開</b></p> <p>2. グループで商品名について話し合い、本時で解決したい課題を確かめる。 (8分)</p>	<p>〈ホワイトボードを用いた3、4人組での話し合い〉</p> <p>C13: みんな文字数に気を付けて考えてきている。                      C14: 12文字以内に収まっているから、ピラミッドの次の段に上げよう。                      C15: 「萬代橋ケーキ」と「萬代橋チュールリップ」。この2つはどうかかな。                      C16: 両方とも魅力を伝えているから、上位に上げていいと思うよ                      C17: 一番伝えたいのは、萬代橋だから、チュールリップは入れなくてもいいんじゃないかな。萬代橋は歴史があるし、まだ魅力があるよ。                      C18: 萬代橋は、アーチが魅力だよな。                      C19: チュールリップを入れた方がよいかどうかで迷うね                      C20: 「萬代橋チュールリップ」の言い方が、何かすっきりしない。                      T7: 伝えたいものの魅力が伝わるかどうかで悩んでいるグループがあります。どんなことで悩んでいるのか教えてください。                      C21: 萬代橋だけでいいのか、チュールリップを入れた方がよいかで迷っています。どちらも魅力が伝わるような気もするけど、これでもいいのか迷っています。                      C22: ぼくたちのグループも、萬代橋の他にチュールリップを入れるかどうかで迷っています。すっきりさせたいです。                      T8: 伝えたいものの魅力が伝わる商品名であるかどうかで悩んでいるんですね。それでは今日の課題は何ですか。</p>	<p>〇ピラミッドチャートの上位にあげるものの数は限定しない。条件を満たしていれば、上位にあげさせる。上位に移動させた理由を吹き出しで書かせる。</p> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px;"> <p>「伝えたいものの魅力が伝わっているかどうかで迷っているもの」か、「同じ商品名でも意見が分かれているグループの考え」を取り上げ、全員で検討する。〈主な働き掛け〉</p> </div> <p>〇〈予想される学習課題〉                      B: 伝えたいものの魅力が伝わる商品名にするには、どちらを入れた方がよい</p>

<p>3 伝えたい魅力が伝わっているかどうか、全体で話し合う (20分)</p> <p>4 再度、商品名を考える (7分)</p>	<p>&lt;学習課題&gt; 伝えたいものの魅力が伝わる商品名にするには、どうしたらよいか</p> <p>T9：悩んでいるグループの考えを聞いて、みんなはどう思いますか。 C23：このスイーツは、萬代橋の魅力を一番伝えたいと思うけど、考えた人に確認してみたいな。 C24：最初は萬代橋もチューリップも両方とも古町の魅力だと思ったけど、一番伝えたいのは萬代橋かな。 C25：それなら、萬代橋の魅力を伝えられるといいんじゃないかな。名物になってのお菓子を見たとき、「段葛」のように名所だけを表しているものもあったよ。「萬代橋」だけでもよいと思うな。 C26：私たちのグループは、伝えたいものの魅力が伝わる商品名になっているかどうかを話し合ったとき、萬代橋の魅力を詳しく伝えているのはいいなと思った。だから、12文字以内にもっと萬代橋の魅力を伝えたほうがいいと思うな。 C27：萬代橋の魅力は、どんなのがあったかな。もう一度知りたいな。 C28：萬代橋の魅力は、アーチだよ。ライトアップもされるし。 T10：商品名にチューリップを入れない方向で話し合いが進んでいますが、チューリップのことを伝える方法はないかな。 C29：宣伝で伝えるのはどうかな。 C30：葉に載せることもできるね。萬代橋の上にチューリップを並べてフェスティバルが行われていることを伝えたいな。 C31：このスイーツの商品名をどうしたらよいか分かってきた。もう一度、商品名を考えたいな。 C32：グループで商品名を考えるのはどうかな。 T11：もう一度グループで話し合いたいという意見が出ています。どうしますか。 C33：グループで話し合う。 T12：それでは、伝えたいものの魅力が伝わる商品名をグループで考えましょう。 C34：「6連アーチ萬代橋」はどうかな。 T13：今日の話合いをまとめましょう。</p> <p>&lt;まとめ&gt; 萬代橋の魅力をもう一度よく知り、それを使って商品名を考えると、伝えたい魅力が伝わる商品名になる。 他に伝えたいことは、せん伝に入れる。</p>	<p>かな。 CとD:伝えたいものの魅力が伝わる商品名かな。</p> <p>○萬代橋の他にチューリップを入れるか入れないかの意見に分けて板書する。</p> <p>○萬代橋の魅力の話で盛り上がってきたら、萬代橋の魅力は何だったかを問い返したり、萬代橋を考案した児童がまとめたものを読み合せてたりして、明らかになったことを板書する。</p> <p>○魅力やスイーツに対する思いがたくさんあり、伝えたいことが商品名に載せられないという声があったら、どうすればよいかを問う。</p> <p>○意見が出尽くした後に、児童からこの後の活動についての意見が出ないときは、どうしたいかを投げ掛ける。</p>
<p>【終末】 5. 学習を振り返る。 (5分)</p>	<p>T14:では、最後に振り返りを書きましょう。</p> <p>&lt;振り返りの視点&gt; ① 分かったこと ②どんな学び方をしたか ③今後の学習に生かしていきたいこと</p>	<p>○自らの学びを省察することができるように、振り返りの3つの視点を示す。</p>

7. 本時の評価規準

伝えたい魅力が伝わる商品名であるかどうかを話し合う活動を通して、萬代橋の魅力はアーチや美しさであることに改めて気づき、再度考え直そうとしている。【発言・振り返りの記述】

8. 参考文献

文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総合的な学習の時間編』

9. 板書計画

◎どんな商品名にしたらよいか？

課題A 伝えたいものの魅力が伝わる商品名にするには、どうしたらよいか

採用された  
古町スイーツ  
「萬代橋」

<チューリップ 入れる>

<チューリップ入れない 萬代橋のみ>

伝えたいものの魅力が伝わる

萬代橋チューリップ   萬代橋

12文字以内

■   ■   ■

萬代橋の魅力とは

まとめ  
萬代橋の魅力をもう一度よく知り、それを使って商品名を考えると、伝えたいものの魅力が伝わる商品名になる。  
他に伝えたいことは、せん伝に入れる。

<予想される児童の反応と、そこから生まれる学習課題>

B 同じ商品名でも、意見が分かれているグループの考え

◎どんな商品名にしたらよいのか？

課題B 伝えたいものの魅力が伝わる商品名にするには、どうしたらよいのか

採用された  
古町スイーツ  
萬代橋

<魅力○>

<魅力△>

伝えたい魅力が伝わる

10文字以内

まとめ (B案)  
萬代橋の魅力をもう一度よく知り、それを使って商品名を考えると、伝えたい魅力が伝わる商品名になる。  
他に伝えたいことは、せん伝に入れる。

萬代橋の魅力とは

C 魅力が含まれているが、魅力がいくつもあるものと、素材や素材感が含まれているものを選択している

◎どんな商品名にしたらよいのか？

課題C 伝えたいものの魅力が伝わる商品名にするには、どちらを入れた方がよいか。

採用された  
古町スイーツ  
萬代橋

< 魅力+魅力 >

せん伝で使う

< △△+△△+魅力 >

伝えたい魅力が伝わる

10文字以内

まとめ (C案)  
萬代橋の魅力をもう一度よく知ると、「魅力+魅力+魅力」の方がよい。素材については、せん伝のときに使う。

萬代橋の魅力とは

D 魅力が含まれているが、魅力がマニアックすぎるものや  
E 魅力が含まれているが、素材や素材感も含まれているもの (一つのみ)

◎どんな商品名にしたらよいのか？

課題DとE 伝えたいものの魅力が伝わる商品名が。どうしたらよいか。

採用された  
古町スイーツ  
萬代橋

<魅力○>

<魅力△>

伝えたい魅力が伝わる

10文字以内

まとめ (E案)  
伝えたいものの魅力が伝わる商品名にするには、魅力をもう一度よく知って、魅力だけを伝える。素材は、せん伝で使う。

萬代橋の魅力とは

